

令和六年度一般選抜試験

個別学力試験問題（前期日程）

国語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十三ページ、解答用紙は一枚です。指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(注) 仕方咄——身振り手振りを使って話をする事。

(山崎正和『演技する精神』による)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部Aについて、「打席のまえで素振りをしている野球選手」が、演技に酷似したものがある例としてあげられている。では、どのような点で演技に酷似するものがあると言えるのか答えよ。

問三 【】でくくられた段落部分において、筆者は演技や演技的な行為に関して、どのような行為だとしているのか。次の中から、本文の趣旨に合致するものを一つ選んで、記号で答えよ。

ア 非現実的な行為であるとしながらも、現実的な意味を持つこともあり、両方の性格をあわせ持つ行為だとしている。

イ 非現実的な行為であるが、考え方によっては現実的行為を超える現実的側面を有するとしている。

ウ まずは、非現実的な行為だとしながら、後半で現実的行為であると判断をくつがえしている。

エ 現実的な側面を有することも認めつつも、結局は非現実的な行為であることが重要であるとしている。

オ 非現実的な行為であるとしつつも、日常生活においては重要な意味を持つことを指摘している。

問四 傍線部Bについて、「有形無形の観客」とはどのような観客であるのか。分かりやすく説明せよ。

問五 傍線部Cについて、「こっこ」遊びをする子どもは、なぜ「冷淡な傍観者が立合うのを嫌う」のであるのか、答えよ。

問六 傍線部Dについて、筆者は日常生活の中の演技を、「以下のように分類される」として、二つに分類している。では、この二つはどのような点が異なるのか、答えよ。

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、
公開しません。)

(多和田葉子『言葉と歩く日記』による)

(注) 杉田玄白——江戸時代後期の蘭方医、蘭学者(一七三三―一八一七)。安永三年(一七七四)前野良沢らとオランダの外
科医書『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、『解体新書』として刊行した。

問一 傍線部について、「平安時代の健康さ」とあるが、どういう意味であるのか。本文に即して分かりやすく説明せよ。

問二 日本語には「神経にさわる」「胸がつぶれる」「胸が躍る」というタイプと「にくい」「悲しい」「わくわくする」というタイプの表現がある。あなたは前者と後者、どちらの表現を使いたいか。具体例をあげて根拠を示しながら、その理由を説明せよ。なお解答の長さは解答欄を満たす程度とする。下書きは左の下書き用解答欄を適宜利用すること。

【下書き用】

問二

--	--	--	--	--

次の文章は、合戦に敗れた源義朝が都から東国へと逃げていく場面である。これを読んで、問いに答えよ。

義朝は、相従ひし兵ども、方々へ落ち行きて小勢になりて叡山西坂本を過ぎて、小原の方へぞ落ち行きける。八瀬といふ所を過ぎむとするところに、西塔法師百四五十人、道を切りふさぎ、逆茂木引いて待ちかけたり。この所は、一方は山岸高くそばだち、一方は川流れ、みなぎり落ちたり。「後ろよりは、敵、定めて攻め来たるらむ。前は山の大衆、支へたり。いかがはせむ」と言ふところに、長井斎藤別当実盛、防矢射て追ひつきたりけるが、「ここをば実盛、通し参らせ候はむ」とて、真つ先に進みて、かぶとを脱いでひぢにかけ、弓脇にはさみ、膝をかがめて、「これは、主は討たれ候ひぬ、いふかひなき下人・冠者ばらが、恥をかへりみず、命を惜しみ、妻子を今一度見候はむとて、国々へ逃げ下る者どもにて候ふ。たとひ首を召され候ふとも、罪つくらせたまひたるばかりにて、勲功の賞にあづからせたまふほどの首は、よも一つも候はじ。たまたま僧徒の御身にて候へば、しかるべき人なりとも、御助けこそ候はむずれ。かかる下臈のはてどもを討ちとどめさせたまひても、何の御用か候ふべき。物の具参らせて候はば、甲斐なき命をば、御助け候へかし」と申せば、大衆ども、「さらば物の具投げよ」と言はせも果てず、持ちたるかぶとを、若大衆の中へからとぞ投げたりける。下部・法師ばら、我取らむ、人に取られじと、ひしめきけるほどに、ある法師、奪ひ取りてうち笑ひて立つたりけるを、斎藤別当をかしと思ひ、馬にうち乗りてつと馳せ寄せて、かぶとをひんばひてうち着て、太刀を抜き、「さりとも、わ法師ばらも聞きこそしつらめ、日本一の剛の者、長井斎藤別当実盛とは我がことぞ。我と思はむ者あらば寄りあへや、勝負せむ」とて、一鞭打つてつと通る。義朝以下の兵ども、一騎も残らず皆通りぬ。徒歩立ちの大衆・法師ばら、馬に当てられて、あるひは川に落ち入り、あるひは谷にころび入り、さんざんのことどもなり。

(注1) 叡山西坂本——比叡山の西の山麓、雲母坂^{きらさか}登山口のあたり。 (注2) 小原——八瀬の北の山里。大原。

(注3) 八瀬——西坂本の北、小原の南にあたる山間地帯。八瀬川が流れている。

(注4) 西塔法師——比叡山延暦寺を構成する三塔の内の一つ、西塔に居住する僧。義朝と敵対している。

(注5) 切りふさぎ——山やがけを切り崩して道をふさぐこと。

(注6) 逆茂木——先のとがった木を組んで作った防御柵。

(注7) 山岸——山が川際まで迫り、高いがけとなつていところ。 (注8) 山の大衆——比叡山の僧兵たち。

(注9) 支へたり——行く手を阻んでいる。 (注10) 防矢——敵の攻撃を防ぐために射る矢。

(注11) 冠者ばら——若い従者たち。「ばら」は複数を表す接尾語。 (注12) 下藹のはて——身分の最も低い者。

(注13) 物の具——鎧^{よろい}やかぶとなどの武具。 (注14) 下部——僧兵の従者。

(注15) ひんばひて——引き奪つて。 (注16) わ法師ばら——お前ら法師たち。僧たちを軽蔑して呼んだ語。

問一 傍線部A「後ろよりは、敵、定めて攻め来たるらむ」を口語訳せよ。

問二 次に示すのは、傍線部B「ここをば実盛、通し参らせ候はむ」に関する生徒たちの話し合いの様子である。これを読んで、空欄ア～ウに入る適当な発言を、本文を参考に記せ。なお、発言は現代語で記すこと。

生徒①…ここを通過するために実盛がどんな策略を取ったか整理してみよう。

生徒②…まず、かぶとを脱ぎ、弓を小脇に抱えて身をかがめて進み出ているね。

生徒③…なるほど、アを示して、話を聞いてもらおうとしているんだね。

生徒①…これなら相手も油断するね。さらに「自分たちは主人を討たれて、故郷の妻子に会うために恥も気にせず逃げ出してきた、取るに足らない者たちです」と素性をごまかしているよ。

生徒③…自分たちは取るに足らない者だと何度も繰り返しているね。次の部分でも「たとえ首を取っても、仏教的な罪を得るばかりで、イ」と理性的に説得しようとしているなあ。

生徒②…無益な殺生は罪になると論しているんだね。これは僧兵には効果的かも。

生徒①…いやいや、僧なら人を殺しては駄目なんじゃないかな。

生徒③…この時代の僧は武力行使も辞さないし、合戦で活躍した僧もいたんだよ。でも、実盛はわざわざ「あなた方は僧の身ですの」と強調して、僧たちが本来持つべき慈悲の心に訴えかけているね。

生徒②…なるほど。「僧ならば、討つべき相手であっても助けるのが当然なのですから、まして私たちは……」と説得しようとしているんだね。

生徒①…正論だけど、それで終わらないところが実盛のすごさだと思うんだ。「ウ」と、具体的な交換条件を出しているんだよ。

生徒③…最後は物欲に訴えかけたんだね。後の文章をみると、これが一番効果的だったみたいだね。

問三 傍線部C「我取らむ、人に取られじと、ひしめきけるほどに」について、何を「取らむ」「取られじ」とするか明らかにしながら口語訳せよ。

問四 傍線部D「をかしと思ひ」について、なぜ実盛はこうに思ったのか、説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある)

晋周処字子隱、義興陽羨人。膂力絶人、不修細行。州曲患之。処自知爲二人所惡、慨然有改勵之志。謂父老曰、「今時和歲豐。何苦而不樂邪」。父老歎曰、「三害未除、何樂之有」。処曰、「何謂也」。答曰、「南山白額猛虎、長橋下蛟、并子爲三矣」。処曰、「吾能除之」。乃入山射殺猛虎、投水搏殺蛟。遂勵志好學、有文思。志存義烈、言必忠信。克己暮年、州府交辟。

(『蒙求』徐子光注による)

(注) 周処——三国時代から西晋の武将(二三六～二九七)。 義興、陽羨——現在の江蘇省にあつた郡と県の名。

膂力——腕力。 不修細行——こまごまとした礼儀を学ばないこと。

州曲——村里。州は二千五百戸あたりの行政区画。曲は僻地、いなか。 慨然——心を奮い起こすこと。

蛟——竜の一種。 搏殺——殴り殺す。 暮年——一年。 州府——州を統治する役所。

交辟——あちらこちらで役人として迎え入れようとする事。

問一 傍線部1「能」、2「遂」の読みを答えよ。送り仮名があれば、送り仮名を含めて答えよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 傍線部A「処自知為人所惡」を口語訳せよ。

問三 傍線部B「何苦而不樂邪」について、なぜ楽しまないのか、その理由を具体的に述べよ。

問四 傍線部C「克己」とはどういうことか、簡潔に答えよ。